

平成 29 年 12 月 21 日

生活支援サポーター各位

## ～生活支援サロン～ よってけ場<sup>ほ</sup> 活動レポート Vol. 5

12月20日水曜日、午後1時から役場内大会議室で、第5回「よってけ場」が開催されました。連日の大雪で疲れている中、足を運んで頂いたサポーターの皆様、ありがとうございました！

前段では、来年4月までにサロン活動を一般公開することを踏まえて、紙を使った広告について考える時間を設けました。コーディネーターからは相変わらず抽象的なテーマを投げかけられるので大変だったかと思いますが、それでも色々な角度から談話が進み、活動のヒントになる言葉もたくさん飛び出すので、非常に頼もしく思います。



「Zの法則」は、今後活動を広めていこうとするときにも役に立つと思いますので、頭の片隅にでも置いていただけると嬉しいです。



今回は平成 29 年最後のサロン活動ということで、今年的生活支援に関する活動の振り返りと、今後の「寄ってけ場」の活動方針について、スライドを使いながら確認しました。大まかな内容は以下のとおりです。

### ① 最近「生活支援」や「支え合い」が全国的に叫ばれているのはなぜなのか？

高齢化率や人口減少の表は各所でたくさん見てきていると思います、今回は少し違う視点のグラフを用意してみました。2025年（8年後）の上砂川はどんな状況になりそうなのか、今から少しでも具体的にイメージしておくことが大切ですね。

## ② いままでの活動と、これからの活動

平成 29 年に行ってきた生活支援関連の行事について振り返りました。

ゆっくりですが、一步一步前へ進んでいることを実感してもらえたら嬉しいです。



これまでの活動を踏まえた上で、来年度の活動目標も例示しました。

主な内容は以下のとおりです。

### 1. 生活支援サービスの開始

平成 30 年 4 月を目途に、具体的な生活支援サービスの提供を開始します。最初は「要支援 1～2」の方々を対象に始めるのが妥当かと思っています。

コーディネーターからサロンへ情報を提供し、サロン内で解決方法を探るといった流れを作ることが、平成 30 年の大きな目標です。



### 2. 「よってけ場」の継続と発展

形だけを整えるのではなく、サポーターが活動に価値を感じる事が出来るような、中身のある生活支援サービスを 5 年 10 年と継続させるためには、「よってけ場」のような座談会や交流活動が必要不可欠です。

今後はサポーターの皆さんの趣味や興味のある事をどんどん取り入れながら、老人クラブや小地域ネットワーク、小・中学校、商工会議所などと一緒に、活動の多世代化、多様化を目指して行きたいと思っています。

何をやるにしても「出来ることを、出来る分だけ」をしっかり意識しながら、楽しく活動できればと思います。

次回の活動日程は、以下のとおりです。

～生活支援交流サロン～ よってけ場

平成 30 年 1 月 19 日（金）10：00～12：00

役場内東館 大会議室

今年は大変お世話になりました。本当に有難うございます！  
来年もよろしく願いいたします。皆様、良いお年を！

